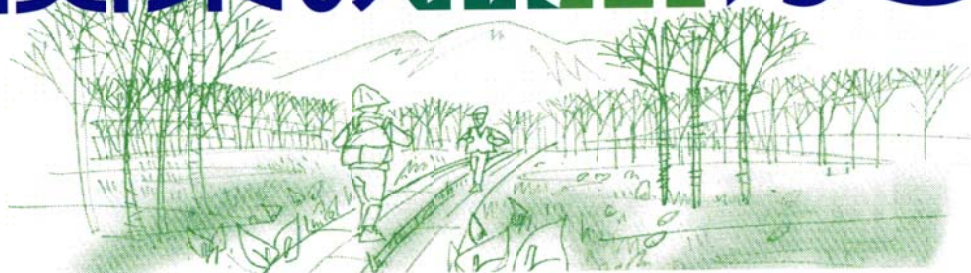


平成22年12月1日

第81号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



小至仏山から至仏山山頂を望む（群馬県みなかみ町）
（撮影者：関東森林管理局 下平 善文）

国有林野の「レクリエーションの森」について

計画部 国有林野管理課

私と国有林 「里山と山岳の保全にかかわる」

関川村山の会会長 平田 大六 氏

国有林野の「レクリエーションの森」について

計画部 国有林野管理課

関東森林管理局では、管内の国有林の中から特に美しい森林や景勝地周辺の森林、森林浴や自然観察に適した森林など、豊かな自然を国民の皆様にご利用していただくため、「レクリエーションの森」に選定しています。

レクリエーションの森は、その目的により「自然休養林」「自然観察教育林」「風景林」「森林スポーツ林」「野外スポーツ地域」「風致探

勝林」などに区分し、283箇所あり、その面積は、山手線内面積の約9倍、約5万9千畝に及び、それぞれの特徴を生かし、地域振興等に配

慮しながら森林や施設の整備を行っています。

レクリエーションの森については、需要の変化から、平成17年度よりリフレッシュ対策として見直しを図っており、それぞれが担っている役割や周辺の類似施設の設置状況、利用状況と今後の見通し、自治体をはじめ地域関係者の意向などを総合的に検討し対策を進めています。

群馬森林管理署管内の碓氷峠においては、廃線となった信越線跡を遊歩道とした「アプトの道」が整備されたことなどから、年間を通じて大勢の人達が訪れるようになり、周辺



笹ヶ峰自然休養林(上越森林管理署管内)



碓氷峠風景林(群馬森林管理署管内)

の自然景観の維持、向上の必要性から「碓氷峠風景林」を新たに指定しました。

また、利根沼田森林管理署管内の雨乞山では、地元の川場村が自然環境の保全活動などを積極的に実施しており、利用者の増加も期待できることから「雨乞山自然観察教育林」を指定することとしています。

今後適切な見直し、計画的な整備に努め、国民の皆様が快適に利用していただけるよう取り組んでまいります。

「レクリエーションの森」の詳細につきましては、<http://www.rinpaaff.go.jp/kanto/invitation/kyuori/rekuroi-1.html>

「<http://www.rinpaaff.go.jp/kanto/invitation/kyuori/rekuroi-1.html>」をご覧ください。

狩猟者のみなさまへ

国有林内には、可猟期間内であっても、立木の伐採や造林作業、林道や治山工事など、多くの方々が入林しています。

このような方々の安全を確保し、狩猟による事故を未然に防止するため、各森林管理署等では、狩猟を禁止している区域や期間があります。狩猟に当たっては、森林管理署等に規制の内容を確認し遵守をお願いします。

猟銃による狩猟の目的で、国有林や官行造林地内へ入林される場合は、「入林届」を管轄する森林管理署等へできるだけ余裕をもって提出し、



注意事項の厳守をお願いします。

また、国有林内にわなを設置する場合は、法令に定められた事項を遵守し、事故防止に努められますようお願いいたします。

詳しくは、[ホームページ](http://www.rinpaaff.go.jp/kanto/apply/nyurin/syuryo.html)をご覧ください。

<http://www.rinpaaff.go.jp/kanto/apply/nyurin/syuryo.html>

新任幹部を

紹介します。

12月1日付け()は前任

森林管理署等

▽ 福島森林管理署 白河支署長

天井 武雪

(吾妻森林管理署 次長)



森林生物多様性見学会

10月7日(木)、赤谷の森において、生物多様性見学会が開催されました。

この見学会は、10月に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に関連し、国内での生物多様性の認知度を高めることを目的として、(株)日本総合研究所が全国5箇所で開催したもので、東京のCRS(企業の社会的責任)担当の方を含む20名の参加がありました。



岡村興太郎氏の説明に耳を傾ける参加者



治山ダムの一部を取り除いた現場を見学

最初に、旧猿ヶ京小学校において、(財)日本自然保護協会の出島誠一氏から、赤谷プロジェクトの概要や目的などについて説明があった後、赤谷プロジェクト地域協議会の岡村興太郎氏と林泉氏から赤谷プロジェクト発足の経緯や旧新治地区の歴史などに関する説明があり、参加者全員が興味深く耳を傾けていました。その後、茂倉沢に移動し、昨年11月に既存のダムの一部を取り除いた取組について、当センターの職員が概要を説明し、参加者からは、ダムの役割や中央部を取り除いた後の効果などについて熱心に質問がありました。

秋の自然散策

保全の取組が広がるきっかけになればと願っています。

10月24日(日)、当センター主催による「赤谷の森自然散策」を実施しました。

この自然散策は、赤谷の森の自然環境を広く一般の方々に知っていただくことを目的として、平成18年度から実施しており、今年度は春季(5月)、秋季(10月)、冬季(2月)の3回を計画しています。

当日は、前橋市やみなかみ町などから19名の参加があり、春季に引き続き参加された方もおりました。赤谷プロジェクト地域協議会会員の長浜陽介氏にガイドを務めていた



アカイボトビムシ

土壌生物に興味津々

だき、リスの食痕があるオニグルミの観察やアブラチャンの葉の香りを感じていただきました。また、初めての試みとして、顕微鏡を用いて、キシヤヤスデやアカイボトビムシなどの土壌に棲む生物を観察しました。散策を終え参加者からは「美しい姿をした土壌生物に出会えて良かった」「人も自然の一部であり共生の必要性が理解できた」などの感想がありました。来年2月20日(日)には、今年度最後の赤谷の森自然散策として、冬芽や雪上についた動物の足跡観察などを予定しています。より多くの方々に赤谷の森への関心を高めてもらえる機会にしたいと考えています。



大きなカツラの木の下で。おつかれさまでした!

小笠原固有の森林生態系保全のために

地元等との連携

小笠原諸島森林生態系保全センター

小笠原諸島は、島の誕生以来一度も大陸と陸続きにならなかったことがない海洋島で、独自の進化を遂げた小笠原固有の希少な種が数多く生息・生育しています。

政府は、世界自然遺産登録に向け、2010年1月に推薦書を提出し、7月には国際自然保護連合（IUCN）の調査が行われました。

小笠原諸島には、人が定住して以来、本来小笠原に自生等していない種（外来種）が、意図的、非意図的に持ち込まれ、小笠原固有の生態系に悪影響を与えています。特にアカギなど繁殖力が強く固有種の生態系

に影響を与えてしまう種（侵略的外来種）への対策が緊急の課題となっています。

国有林では、平成14年度・平成15年度に母島において試験的な駆除を行い、平成20年度から本格的に駆除事業を開始したところです。

外来植物の駆除では、地元の方（中学校・高校など）や島外の方にもご協力をいただき進めています。

東平SAと南島で外来植物の駆除体験

小笠原中学校は、平成18年度から一年生の「総合的な学習」の時間で、東平アカギシラカラスバトサンクチュ



外来植物アカギが純林化した森



南島での外来植物の駆除体験

アリー（SA）と南島で外来植物の駆除を実施しています。今年、10月21日に生徒・教員25名が、南島でムラサキノキビなどの抜き取り、また、10月28日には、東平でキバンジロウやアカギなどの抜き取りを実施しま



侵略的外来種ランタナの抜き取り

した。生徒からは、「外来種がいっぱいあってビックリした」「固有種の大切さをあらためて知りました」「また外来種の駆除がしたいです」などの感想がありました。

この体験にあたっては、東京都（都レンジャー）と当センターから事前のレクチャーを行ったほか、当日は地元NPO・NGO等と連携を図り、指導にあたりました。

侵略的外来種の駆除活動

小笠原高校による外来植物の駆除活動は、平成20年度から実施されており、活動にあたっては、当センターから森林生態系、固有種、外来種や外来植物の駆除方法等について事前レクチャーを行っています。



地元NGOから作業の説明を受ける農大生

今年の活動は、7月26日に父島の属島である兄島の滝之浦において、生徒・教員47名が、炎天下の中、悪戦苦闘しながら一面に繁茂する侵略的外来種であるランタナやギンネムの抜き取りを実施しました。

こうした駆除活動は、高校生のほか、地元NPOも従来から協力をいただいています。

また、今年で6回目を向かえる東京農業大学ボランティア部のモクマオウ等の駆除活動、小笠原村民の方によるシンクリノイガの駆除など、島内外の数多くの方々にご協力をいただいています。

こうした取組には、地域の方の理解と協力が必要なことから、今後も地元関係者やNPO・NGO等と連携を図り進めるとともに、小笠原の希少な自然に触れる機会を設けていきたいと考えています。

子ども樹木博士の認定活動を実施

計画部 指導普及課

指導普及課では、子ども達が樹木とふれあいながら、森林や自然環境について学び、自然を大切にすることを養うことを目的として、毎年2回子ども樹木博士の認定活動を行っています。

安中市立九十九小学校

9月27日(月)安中市松井田町にある小根山森林公園で、安中市立九十九小学校3年生11名・4年生10名を対象に子ども樹木博士を行いました。秋の訪れを感じさせる冷たい雨の降る中、園内にある樹木の由来や特徴などをパネルを使って学んだほか、森林の保水能力を実験する「簡易ライシメーター」では、裸地や草地に比べ、森林がたくさんの水を吸い込み、地下水となって流れ出す様子を実験しました。

子ども達は「ビックリした」などと歓声をあげながら熱心に聞き入り、積極的に学校にある植物との違いなど質問を繰り返していました。学習後、全員が認定試験を受け、見事に子ども樹木博士に認定されました。



小根山森林公園の教室で



森林に降った雨はどこに行くの？

前橋市立岩神小学校

11月5日(金)関東森林管理局構内において、岩神小学校3年生66名を対象に子ども樹木博士を行いました。

局敷地内の樹木の特徴などをパネルを使って説明していると、自分で由来を考える子どもが増え、「キンモクセイって木星みたいにキレイだから名前がついたんじゃないかな」など、大人では思いつかないような素敵な由来を思いつく子が続出しました。

また、地元の小学生だけに「なんで営林局から森林管理局に名前を変えたの?」「営林局の方がカッコいいし、わかりやすかった」など平成生まれとは思えない質問も多く寄せられ、こちらがたじたと感じる場面もありました。元気な子ども達でしたが、認定試験になると一転して真剣な顔になり、見事に全員が子ども樹木博士に認定されました。

「国有林モニター会議」を開催

企画調整室

関東森林管理局では、国有林の管理経営に国民の皆様の声を反映させていくため、国有林モニター制度を設け、モニター70名から意見や提言を伺っています。

この一環として、去る10月19日、群馬県安中市の国有林において、国有林モニター会議を開催しました。当日は、各都県より、12名の国有林モニターの皆さんに参加いただき、現地視察及び意見交換会などを行いました。

現地視察

現地視察では、昨年12月に策定された森林・林業再生プランにも掲げられた、森林整備の効率化の現場として、高性能林業機械を用いた間伐



間伐について説明



間伐木の造材作業



会議の様子

作業や、関東森林管理局独自の取組である、生物多様性保全と木材生産との両立を目指したオオタカモデル森林について紹介・説明しました。モニターの皆さんは、はじめて見る林業機械や間伐作業に、非常に関心を持たれた様子で、作業の厳しさや路網の必要性など、林業を取巻く状況について理解を深めていただけたのではないかと思います。

意見交換会

午後の会議では、関東森林管理局管内の概要や森林・林業再生プランを踏まえた当局の取組等について説明をした後、モニターの皆さんとの意見交換を行いました。

モニターの皆さんからは、森林整備が遅れている国有林への対応策や国産材の利用拡大への取組、共同施業団地化の推進、森林・林業や国有林の更なるPRの必要性等、様々な意見交換がなされ、有意義な一日となりました。

私と国有林

里山と山岳の保全にかかわる

関川村山の会会長 平岡 大六



私は、地元の里山と、飯豊連峰と、二つの山の保全にかかわっています。「里山」という言葉が、この頃使われるようになりました。私はその里山の麓の原住民です。原住民の人たちが山へ入ることは少なくなってきました。製炭や薪集めなどを生業とする人々がいなくなつたせいもあります。

里山には、登山の対象になつていて、村外からも登りにきてくれる576峰の山があります。この登山道も他の山道とともに、麓の5集落80世帯の人々で維持されています。それは、登山者の来ない時代からです。



里山保全共同作業メンバー

もとは営林署（下越森林管理署村上支署）で植林などのために整備されてきた道でしたが不要になつたのです。そこで地元では、自分らの手で整備する「義務」をはたすことによつて、「官山」の「入会権」を確保しているのです。年一度、一日の山道手入れ作業は、カマ・ノコギリ・ナタなどで、のびてきたヤブを刈る作業です。

近年、共同作業に参加する人が少なくなつて役員は困っています。今年も全道手入れはできませんでした。権利を棄てるか、あるいは不参加者へのペナルティをもうけようか、と



最近の登山者



飯豊連峰の保全活動(浸食保護)

いう分かれ道にきています。山菜取りばかりの利用でなく、広いフィールドを提供してイベントを張り、よその人たちにきてもらつて価値を認めていただければ、地元の意識もかわるかも、という提案もできました。そうあつてほしいと思います。もうひとつ。

最近の登山の風潮はかわりました。「雨の中でマツチ一本新聞紙一枚でタキ火おこせ」とか「雷にも息があるぞ」などと、かつて私たちは鍛えられ「忍者」になろうとしました。しかし今は、中高年、百名山、山ガールへの変化も「是」としなければなりません。

そんななかで、登山道を痛めるのは登山者自身であるという認識にたつて、保全活動にとりくむグループが生まれました。フィールドは飯豊連

峰です。2008年2月、福島・山形・新潟県の山岳団体などで発起結成された飯豊連峰保全連絡会です。現在、団体・個人39、会員221名になりました。

登山道や幕营地などが荒廃しています。道の裸地化や複線化、ガリ浸食、表層崩れ、地塘への土砂堆積などです。これを、浸食部の土溜め、雨水排水路、植生保護などをするために、石や麻土のう袋置き、緑化ネット張りなどの作業を年数回共同で行はじめました。人力はボランティアです。本年6月、環境省東北地方環境事務所長表彰をいただいています。しかし、まだ道なかばです。

現在私は77歳、これからも、里山や山岳、国有林とのおつきあいはつづくと思います。



飯豊連峰の保全活動(裸地保護)

森づくり最前線

天竜森林管理署 掛川森林事務所 森林官 幾井 美雪



国有林周辺に広がる茶畑

私の勤務する掛川森林事務所は、静岡県西部の掛川市、袋井市、磐田市、菊川市、御前崎市及び森町の5市1町を管轄しています。

管内の国有林は、東海道本線を境に北と南の二つの地区に分かれています。

南に位置する小笠地区は、掛川市及び袋井市の両市にまたがる小笠山（標高264㍍）の南西に広がり、国有林面積は約722㍍で、ほぼ全域が土砂流出防備保安林に指定されています。スギ・ヒノキの人工林率は約20%で、天然林が多く、森林と人との共生林として小笠山自然観察教育林等を設定し、保健・教育的な利用の場を提供しております。

国有林の周辺には、茶畑が広がり民家も点在しており、林内の散策や散歩・ランニングコースになっているなど、地域の人々との生活と密接な関係にあります。農道を利用させていただいたり、自治体及び自治会等との関わりも重要であり、良好な関係の維持に努めています。

近くには「掛川城」、Jリーグ・ジュビロ磐田の準本拠地の「静岡スタジアム（エコパ）」、ヤマハリゾート「つま恋」などの観光施設等もありイベントの際には大勢の人が訪れます。

また、市街地に近いこともあって、ゴミの不法投棄が悩みの種です。自治体及び自治会等で撤去やフェンスの設置など協力していただいておりますが、対策が追いつかない状態です。今後も不法投棄防止のため巡視を強化し、啓発に努めていきたいと考えています。



タイラ沢の大滝（森町自然百選の一つ）

北に位置する霊泉・平沢・黒俣地区は、静岡森林管理署管内の島田市と境を接する掛川市、森町の国有林432㍍を管理し、八高山（標高832㍍）、大日山（標高881㍍）周辺にあり、ほぼ全域が水源かん養保安林に指定されています。平沢地区を除き、スギ・ヒノキの人工林率は約90%で、間伐等の手入れが必要な時期を迎えている森林が多くあるため、森林整備を進めています。

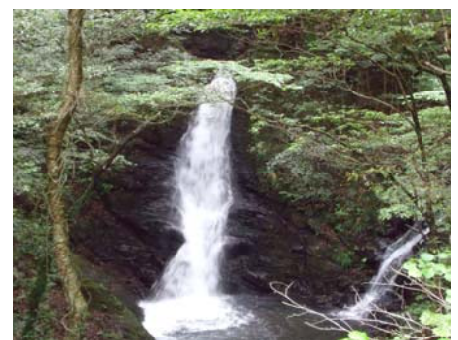
南方の国有林とは対照的に、市街地とは離れていますが、昨年完成した「太田川ダム」では、貯水が始まり林道が沈んでいく光景から最高水位試験まで見るという貴重な体験ができました。ダム湖は、「かわせみ湖」として整備され、国有林内にある「杉沢の大滝」へのアクセス道も良くなったことから、散策に訪れる人達が増えてくるものと思います。

また、何年かに一度凍結するといわれる、森町自然百選の「タイラ沢の大滝」は、凍結した時には写真撮影に多くの人が訪れます。

管内の国有林は、このように地元の人達の生活と密接な関係にあるので、皆さんの声に耳を傾け、国有林への理解が一層広がるよう努めていきたいと考えています。

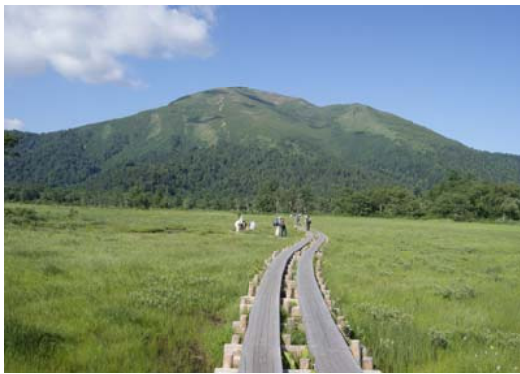


太田川ダムの最高水位試験状況



杉沢の大滝（雨天後）

しぶっさん 管内の百名山「至仏山」



尾瀬ヶ原木道から望む至仏山



可憐に咲くホソバヒナウスユキソウ

至仏山（標高2,228㍎）は、群馬県利根郡片品村とみなかみ町にまたがり、尾瀬国立公園尾瀬ヶ原の南西に位置しています。

深田久弥の日本百名山には、尾瀬から2峰が選ばれておりますが、ひとつはこの山域の最高峰である燧ヶ岳、そしてもうひとつがこの至仏山です。

尾瀬ヶ原をより引き立てる山容は「尾瀬の女王」と呼ばれるにふさわしい気品と風格があり、向かい合う燧ヶ岳とともに尾瀬の風景に芸術的なシルエットを醸し出しています。

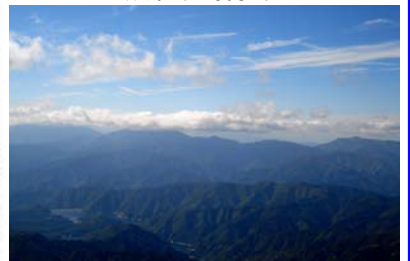
山体の上部は塩基性の強い蛇紋岩の影響で森林限界が低く、展望が抜群にいいのも大きな魅力です。

また、オゼソウや欧州のエーデルワイスに近縁のホソバヒナウスユキソウなど高山植物の宝庫ですが、貴重な高山植物を保護するために、7月の山開きまで入山規制を行っています。人目を避けるようにひっそりと花を咲かせる神秘性は多くの人々を引きつけてやみません。

至仏山への登山基地となるのは、広大な駐車場と休憩所・山小屋が完備された鳩待峠が一般的であり、山頂までは約2時間程度で踏破することができます。



賑わう鳩待峠



至仏山頂からみなかみ町方面を望む

山頂まで登ればみごとな眺望が開け、尾瀬ヶ原の奥にそびえる燧ヶ岳をはじめ会津駒ヶ岳、平ヶ岳、越後駒ヶ岳、中ノ岳、日光白根山など、「日本百名山」に名を連ねる山々が一望できます。

至仏山周辺は、この豊かな自然環境の維持、動植物の保護などを目的に、「至仏山・笠ヶ岳西面県自然環境保全地域」に指定されています。

利根沼田森林管理署では、森林保護員（グリーンサポートスタッフ）の活動などを通じ、至仏山周辺における豊かな自然の保全活動、登山者へのマナー向上を呼びかけていきたいと考えています。

（利根沼田森林管理署 広報広聴連絡官）

赤谷の森自然散策

冬の森林・冬芽、動物のフイーンとさえずり観察会を行います。

参加者募集



実施日 平成23年2月20日(日)
実施場所 赤谷の森(いきもの村ほか)
(関東森林管理局(前橋市)又は利根沼田森林管理署(沼田市)集合)

募集人員 30名(定員になりしだい締切)
申込方法 イベント名「赤谷の森自然散策」及び参加者全員の①郵便番号②住所③氏名④年令⑤電話番号等を、当センター担当者にお知らせください。

申込締切 平成23年2月15日(火)
参加費 無料

お申し込み・お問い合わせ先
赤谷森林環境保全ふれあいセンター
担当：竹田・星田

〒378-0018 沼田市鍛冶町0929-1
電話番号 (0278) 600-1272
ファックス (0278) 240-5622

E-mail akya_posmaster@ryyaraaff.go.jp

発行所 関東森林管理局
編集 総務課

TEL (027) 210-1158
FAX (027) 210-1159